

武蔵野市エコプラザ（仮称）検討市民会議（第19回） 議事要録

日 時 平成31年1月17日（木）19:00～21:00

場 所 武蔵野市413会議室

出席者 委員12名、事務局6名

小澤（紀）委員長、鈴木（雅）副委員長、大沢委員、大谷委員、上吉川委員、
木村（文）委員、佐久間委員、志賀委員、塩澤委員、鈴木（圭）委員、村井委員、
木村（浩）委員、

- 議 事 1 武蔵野市エコプラザ（仮称）管理運営方針案の記載内容について
2 その他

1 武蔵野市エコプラザ（仮称）管理運営方針案の記載内容について

発言者	要旨
委員長	<p>前回に引き続き、管理運営方針案の記載内容について、基本的な枠組みは変わっていないが、ご意見・ご質問をいただきたい。</p>
委員	<p>具体的にイメージができてきた印象がある。</p> <p>エコプラザの運営に、環境に関する団体が、固定的ではなく、どう参加できるかが重要であるとする。環境に関連してやってみたい講座やプロジェクトなどを提案してもらい、みんなで決めていくのがよい。固定的な人たちが運営すると、利権になってしまうこともあると聞く。利権構造を排除するためにも、行政が運営するという側面は大切だと思う。</p> <p>また、プロジェクトを評価する評価軸が必要である。例えば、「世田谷まちづくりファンド」は、公益信託で、住みよい環境づくりにつながるプロジェクトにいくらか助成している。環境目的のプロジェクトは、失敗するかもしれないが学生グループに任せて、チャレンジする部分とベーシックな部分と、その辺を調和させるような第三者機関のようなものがあるとよい。運営は行政が行うとして、企業などからお金を集める窓口としてエコプラザがあれば、そのファンドを運用していろいろなことが考えられる。</p>
委員長	<p>市民参加型で、多様な主体が連携協力することとした上で、企業からもファンド的な提案があって、柔軟に運営協議会が議論できればよいと思う。</p> <p>世田谷のまちづくりは、世代交代していて、その遺伝子を他の地域に広げていた。武蔵野市は地域ごとにコミュニティセンターがあり、それぞれ色合いが異なる。コミセンに遺伝子を撒いて広げていくことで、エコプラザの知名度を上げていくことにもつながる。次の世代に確実につないでいくことが重要である。</p>
委員	<p>エコプラザは初めからつくりこむのではなく、コンパクトに始めて、市民参加で育てながら増殖させていきたいと考えている。</p> <p>公募提案型啓発事業は、市民や市民団体などがやってみたいことがあったときに補助するものとして考えている。市からの移管拡充事業としては、「環境フェスタ」や「水の学校」を考えている。</p> <p>体制は市直営なので、市の正規職員がベースとなって、管理運営や市の施策に関連する事業の企画・実施、清掃業務の委託などを行う。館全体の具体的な事業に関</p>

	<p>しては、ファシリテーター、コーディネーターといった役割の専門嘱託員が担う。「登録ボランティア」については、土日も含めて開館することを考えると、ボランティアの方に平常時に施設内のガイドやコーディネーターの補助などを担ってもらい仕組みができないかと考えている。みなさんからご提案いただきながら施設を少しずつ良くしていく仕組みを作りたい。</p> <p>運営協議会については、前回意見をいただいたところである。また、関係者による定例会議には登録ボランティアの方や事業をやってみみたい方などに参加いただき、この場で具体的に議論した内容に対し、運営協議会で意見をいただく体制にしていきたい。定例会議に市民が参加して議論できるような新しい仕組みを作りたい。</p>
委員長	<p>市民参加型でありながら、「進化しながら磨く」という点が、伝わりづらいかもしれない。硬直化せず、常に完成形としないで、施設も人も進化し続け、価値や目標を共有していくというのが理想になる。</p>
委員	<p>登録ボランティアについてだが、例えば江戸東京建物園でボランティアガイドをしている人は、建物の知識を学んで教えるのが楽しいからやっていると言う。自分が元々スキルを持っているからという理由でなく、学ぶことが楽しいという人もいれば、労働を提供したいという人もいる。様々な選択肢があって、中高年世代が自分の好奇心を満たし、活躍できるような場が必要になってくる。人材はたくさんいると思うが、その人たちが続けられるにはどういう形があるのか、自由度の高い仕組みが必要かもしれない。専門資格を持っていてもボランティアとして携わると「今日は行かない」などと責任を持たない人がいるとも聞く。自分の好奇心を広げたい、世界を広げたい、環境をよくしたいという思いで集まった人たちでできるような、器の広いものができるとうい。</p>
委員長	<p>環境はそういうジレンマを抱えながらやっていくというところがある。また、専門知識のあるスタッフの価値規範を押し付けられても困る。エコプラザのコンセプトである「共・創・継・場」の4つのキーワードを使って、教える側も、自分が学んだことについて、こんな点に感動してこんなふう実践したいのだという思いを、共有できる話し方をすることが大切になってくる。しなやかさがほしい。共に育ち合い、学び合う、はぐくむ、育てることが大切だと思う。</p>
委員	<p>登録ボランティアという言葉は、月並みな発想だと感じてしまう。今まで議論してきたエコプラザにふさわしい言い方が必要である。</p> <p>来た人にサービスを提供すると、来た人が受益者になってしまっていて、自らの行動に発展しないことがある。サービス化の弊害だという専門家もいる。運営側になってもらう人材を求めても、サービスを提供する限り、サービスを受取る側は提供する側になろうとは思わないなど、意図したことと違うものになってしまいがちである。</p> <p>委員長が言った、学び合い教え合うことが大切になる。自分が学んだことを次に来た人に教えるという関係を作っていくことが重要で、そういう意識のある人の受け入れをどのように行っていくかが大切になる。</p> <p>ボランティアに担ってもらい必要があるのであれば、どういうことをやってもらうのかを具体的に示す必要がある。市職員、ファシリテーター、コーディネーター</p>

	<p>それぞれ何人を想定しているのか明確にして、この人員では足りないという部分を表すことが重要だ。別紙3の図では、協議会や定例会議が、体制図とどのような関連があるのかがわかりにくい。運営に関する協議会を、実際に運営する別紙2の人たちとは別に作るのであれば、両者がどのように接点を持つのかが見えにくい。イメージがあるのであれば、明示しておくといい。</p>
委員長	<p>都道府県に事務局がある「こどもエコクラブ」のように、アドバイスだけでなく、学生や高校生がアイデアややってみたいことを言える場があってもよい。</p>
委員	<p>市直営なので予算は単年度になると思うが、年度の始めに運営に関する協議会に諮るイメージなのか、途中で運営状況を報告して評価してもらうのか。関係者による定例会議との関係がわかりづらい。</p>
副委員長	<p>最近話題になっている大相撲でいうと、国技館を管理しているのはこのコーディネーターで、横綱審議会がこの協議会にあたるすると、肝心のお相撲さんがどこに書いてあるのかと疑問に感じてしまう。プレーヤーそのものがイメージできないといけないのではないかな。</p>
委員長	<p>詳しく書いてしまうと、組織が硬直化していくので、常に進化し続ける施設として、伸び代を持たせて書いておいた方がよいと思う。あまり書き込んでしまうとそれに沿っていないとだめだとなりかねない。</p>
委員	<p>いろいろな施設に視察に行くことがあるが、それらの施設の運営体制がどうなっているのか、外から見ると気になる。この図では、外部の人に説明しにくいと思ったが、委員長の言うとおりで、あまり書き込まないメリットがあるという考えであれば、このままでよい。</p>
委員	<p>あまり書き込みすぎると、これをやらなくてはならないとなってしまふ。その反面、書き方が足りない理解されにくいこともある。そこはフレキシブルなところだと思っている。館長、職員、ファシリテーター、コーディネーターの部分は、人数を示していないが、まだ議論の最中である。最小限の人数でと考えているが、土日も開館するため、ローテーションを回すだけでも大変だと思う。だからといって手厚くするわけにもいかない。一定程度はボランティアの方に手伝っていただきたいと思っている。事業についても、それぞれの活動団体に自主的に取り組んでもらうという方向性でやっていきたい。</p> <p>別紙3の運営協議会は第三者的な機関で、年数回開催するイメージである。関係者による定例会議は、例えば月1回程度、プレーヤーになる人が具体的な議論をしながら回していくというイメージ。まず始めて、試行錯誤しながらやっていく施設と考えている。</p>
副委員長	<p>2020年11月に開設予定とのことだが、大事なのは、ここに来ると一体何ができるのか、一体何の施設なのかということが、開設時にどんなふうに分かってもらえるかである。そのためには、プレ事業やプログラム検討がとても大事である。これまでの事業を移し替えるというだけではなく、ここで一体誰がプレーできるのかといった、事前の情報提供がとても大事になる。開設後どんどん変化していくだろうが、一度イメージがフィックスすると、それを払しょくするのは難しい。夢を持ち、期待を持って受け止められるような仕掛けを最初にしないとけない。</p> <p>館長の役割についてだが、施設管理者としての館長ではなく、ディレクター・プ</p>

	<p>ロデューサーとしての館長ということであれば、責任は重いし資質が問われる。どう舵を切っていくかという方向性の権限を館長に負わせると、大変な仕事になるが、それがないと単に多数決で決まったことを淡々とやるだけの施設になってしまうとも思う。それは来年度の仕事によって、決まってくると思う。</p>
委員	<p>来年度は、プレ事業を実施しながら、人材を発掘したり育てたりすることを考えている。今の時点では具体的なプログラムを示すことができないが、実際に施設を担う人たちと議論しながら来年度に作りあげていきたい。見て面白い、魅力がある、環境を学びたい、何かしてみたいというところにまでできたらよいと思っている。</p>
委員長	<p>しなやかに、修正しながら進化するというメタボリズムのテーマを忘れないできちんと対応できる人が、どの場面でも、職員であろうと嘱託であろうと大事だと思う。そこをなかなか理解せず、組織の論理だけで動く人がいるが、クリーンセンターもエコプラザでも、ここまで柔軟に対応してきている。</p>
副委員長	<p>先日クリーンセンターで行われた「gomi_pit BAR」はとてもよかった。ごみピットを眺めながらジャズを聴いたり酒を飲んだりできるという意外性が、観光になるのだなと思った。こんなことをするために作った場所ではないが、発想のデザイン力が非常にすぐれていて新鮮で、あの空間が生きている。こういったアイデアがどんどん出てくれば、今までごみ施設に来なかったような人が来るようになるのではないか。とてもよいヒントだったと思っている。</p>
委員	<p>クリーンセンターがそれだけ話題になって、見学者への対応が、市の職員は大変だと思うが、どのくらい業務が増えるものなのか。エコプラザも画期的な施設にすれば、この人員体制の規模がよくわからないが、対応に忙殺されるのかもしれない。特に一年目、二年目は混乱するのではないか。</p>
委員	<p>クリーンセンターでは、かなりの数の視察対応をしている。市役所の向かいにあって、「見える化」して、周辺の皆さんと議論した積み上げの中であのような施設ができたということは、全国的に見ても驚きで受け止められている。さらにエコプラザができて、広がって、環境に関する様々なことが学べて行動につながるということになれば、手前みそだが、画期的なことだと思う。視察対応についても考えていかななくてはならない。</p>
委員	<p>エコプラザでボランティアを募集するというのを踏まえると、コミュニティセンターを巻き込んでいく必要があると思う。地元のコミュニティセンターでは、福祉、教育、健康、防災の話題と比較して、環境の話はハードルが高いとされていたが、一昨年にクリーンセンターができて「新クリーンセンターを見に行きたい」という声が多くあがった。「gomi_pit BAR」のような意外性のある発信は大きなインパクトがあるが、発信の仕方を工夫すれば、コミュニティセンターでも興味をもってくれると思う。この機を逃すべきでないと思っている。</p>
委員長	<p>私も「gomi_pit BAR」に行った。このイベントは、市と武蔵野市観光機構が提案したものを、東京観光財団が全額費用負担の上、旅行会社に委託して実施したもの。こういったイベントに興味を持つ人は、例えば京浜工業地帯の夜景を見に行くなど一定の人たちはいる。</p> <p>環境については、ある意味、絶望しているところがあるかもしれない。こまめに</p>

	<p>電気を消しても温暖化は進むし低炭素社会になっていかない。やはり、本質的な学びをしないと、都市の本質にはたどりつかないと思う。アメリカのジェイン・ジェイコブスが論じていたように、開発して高速道路を作るのがよいのか、近隣のストリートでダンスをするような地域がよいのか、私たちは、市民参加を大事にしてやってきた武蔵野市が何を指すのかを考える必要がある。</p> <p>「絵本のかえっこ」に参加して受付をしながら、家族のありようをずっと見守っている。手を差し伸べなくてはいけない家族がいることを常に感じていて、そういう家族に手を差し伸べることができるのが公共の施設であり、市職員でもあると思っている。一声かける意味は大きく、お金を持つことよりも、時間を豊かに過ごし、そして心も豊かになり、真の幸せやまちの良さに気づいて、考えることが必要だと思う。</p> <p>組織が硬直するということは常にあり、それは、人間が固定化してはいけないということ。意外性を見つけることで、新たな物語性が生まれることにつながることもある。</p>
委員	<p>エコプラザがエコプラザで完結したら意味がなくて、地域の中にどんどん波紋が広がるように水平的に広がっていく必要がある。そういう役割をエコプラザが担わなければならない。コミュニティセンターとどうつながっていくか、地域の学校とどうつながっていくかも大事である。エコプラザに来ないと何も始まらないということではなくて、地域の中でやっていることとつながって、新しいことができ、それがまた波紋になって広がっていくというイメージを描いて議論してきた。それをどうやって実現できるか、実現できる運営体制がとれるのが大事になる。</p> <p>ファシリテーターやコーディネーターを設けたということは、ここの場所だけでコーディネーターをやるのではなく、地域との結びつきもコーディネートする役割も期待されていると思う。想定プログラム例を見ると、今言ったアウトリーチ型の事業が見受けられないが、地域とつながるという意味では重要だと思うので、どこかにイメージさせるものを入れた方がよい。エコプラザのコンセプトを議論して、ごみ減量を目指す施設から環境全般を取り上げる施設へとシフトした時に意義を感じたのは、子どもたちや教育現場とつながるという可能性が出てきたことだった。</p>
委員	<p>ゲストティーチャーと書いてある部分がアウトリーチにあたる。</p>
委員	<p>公募提案型啓発事業は、エコプラザで一番の目玉になると思う。</p>
副委員長	<p>先ほどの、サービスを受ける側と与える側の話だが、ふだんの授業では学生は聞いている一方なのに、例えばまちづくりのワークショップでは、いろいろな人の話を聞きながらうまくマッピングしていた。ふだんはたよりないのに、与えるとかなりできる。武蔵野市は、市内に大学がいくつもあるので、この学生たちのパワーを使わない手はない。学生と先生のセットで携わってもらえたらよいと思う。大学の研究室のプロジェクトとしてここを使って、例えば小学生に環境のことを教えてもらうのはどうか。武蔵野の特性をかなり生かせるのではないかと思う。</p>
委員長	<p>積極的に広報していく必要がある。</p>
委員	<p>開館時間についてだが、平常時は17時に閉める施設でよいのか。</p>
委員	<p>土日は開館することになっている。最初はコンパクトに始めて、市民参加の講座や</p>

	イベントを夜間に開催したいという希望があれば、臨機応変に対応したい。まずは17時までとして、開設後の状況などを見て検討していきたい。
委員	「エコ」という言葉がついているのだから、太陽の動きに合わせて、日の出・日の入りにあわせて開館するという時期があってもよいのではないか。日の入りが1分ずつ短くなったら、閉館時間も1分ずつ短くするといった発想もあってよいと思う。そういう今までにないことを考えるのであれば、夏は長くて冬は短いというのもあってよいのではないか。
委員	おもしろいと思う。日の出から何時間開いているとするのもよい。
委員	夏休みは朝から利用したいという要望もあるので、意見としていただき、ニーズを踏まえて考えていきたい。
委員	エコプラザで活動している人たちがいて、活動が盛り上がったところで、17時になったので閉めます、出ていってくださいということがあると、そういう施設でいいのかと疑問に思う。そういう状況があった場合には、柔軟に対応することを検討していただければと思う。最初から、そういう施設だという打ち出し方をするのが、あまりよくないと思う。
委員	「原則として」と入れるのはどうか。
委員	別紙3について、開設前については、もう少し具体的に書いてもよいと思う。特に定例会議の位置づけがわかりづらい。開設前については、具体的に、例えばプログラムを検討する分科会とか、SDGsを含めた広報を検討する分科会とか、ボランティアスタッフを含めた人材マネジメントを検討する分科会など、それぞれ具体的な案を作って運営協議会にはかって、全体的な調整をしてもらうなど、体制をしっかりと書いておいたほうが、より具体的な議論ができるのではないと思う。
委員	検討する。

報告事項

- 1 ニュースレターVol.2 (案) について
- 2 「はたちのつどい」配布資料について

その他

発言者	要旨
委員長	この会議の最終回なので、感想などお聞かせいただきたい。
委員	2年間があつという間だった。環境は個人的に興味があるので、色々と考えさせられて良かったと思う。武蔵野市民ではないので、よい意味で冷ややかに、武蔵野市はこうやって話し合いをして決めているのかという経験ができて良かった。エコプラザについては、できてからが勝負になると思うが、今までにないような、いろいろ変わっていく、そういうエコプラザであってほしい。最初に委員長が言われたプラスチックごみも課題で、武蔵野のエコプラザから発信して、武蔵野市だけで完結しないで、全国に響くような、他の自治体に影響を与えられる、よい意味で目立つような施設になってほしいというのが私の願いである。
委員	市の会議に参加するのが初めてで、いろいろと意見を言う機会を得られて感謝している。皆さんのいろいろな立場からの意見が勉強になった。さらに楽しみな

	施設になりつつあるので、これからも参加者として応援していきたい。
委員	<p>このような会議に初めて参加したが、勉強できて感謝している。参加の目的が自分の環境意識を高めるためだったが、アンテナを高くすることができた。個人的には当初のねらいが達成できて良かった。</p> <p>参加している期間中、公募市民としては利用者の立場で発言してきた。この施設ができれば桜堤から参加したいが、少し遠くて足がないので、コミュニティバスがあるとよいと思っている。</p>
委員	<p>2年間のうちの特にこの1年は、いろいろな会議に関わってきた。エコプラザ以外にクリーンセンター周辺整備協議会、ごみ市民会議などの会議を経験して本当に勉強になったが、クリーンセンターを知らない人がいることも知った。この会議が一番面白かったし、見守っていかなければいけないと思った。柔軟にいろいろなことをやれたと思う。地元に住んでいるので、これからもずっと関わっていくと思うし、何らかの形で関わっていきたいと思っている。</p>
委員	<p>1年間、大変勉強する機会になって感謝している。金融機関という立場で参加して、環境というキーワードの中では、知識が薄く経験則で発言をして行き過ぎた点があったかもしれない。</p> <p>住まいは武蔵野市ではないが、市内の支店に7年間、そのあと本部で武蔵野市役所担当となって2年になる。市役所にはほぼ週に1回は来ている。いろいろな部署と関わって、まちづくり推進課や他の様々な委員会にも参加させていただき、1年前よりも武蔵野市が好きになった。エコプラザができれば、更にこのエリアに賑わいができればよいと思っている。また、エコプラザは市民参加型施設ということで、いろいろな事業に取り組むことになると思うが、金融機関としては、環境というキーワードで何か事業を実施する際に、ぜひ利用させていただきたい。</p>
委員	<p>いろいろあるが、2年間の特に直近の1年間は考えさせられることが多かった。非常に密度の高い、よい議論をしてきたと思っている。手応えがあった。実現できれば、これまでクリーンセンターに関わってきた人の思いを昇華させることができるし、これから先のごみ問題に向きあう若い市民に対しても責任を果たすことができると思っている。着実に実現していくことが大事だと思う。一方で、我々が議論している内容が多くの人に伝わっていない。しかも、公的な立場にあるような人が全く理解していないという非常に残念な状況がある。</p> <p>これから、運営のことを具体的に検討していくことになるが、運営が一番大事になってくる。ごみから始まったエコプラザの議論だが、ごみも地球温暖化も市民一人ひとりが行動しなければ解決できない。行動に向けさせるためにはどうすればよいかを議論してきたが、大事なのは市民一人ひとりに寄り添うことで、エコプラザが寄り添う場であるかということだと思う。それができる運営体制、運営のありかたをつくるのが大切であり、それが実現できれば、今は理解できない人に対しても、言葉ではなく目に見えてわかってくるのではないかと思う。これからの1年が大事だと思うので、私も引き続き、できるところで関わっていきたい。</p>
委員	<p>皆さんとお話しできて非常に刺激的であった。自分の所属している会は平均年齢が75歳くらいのメンバーで、どちらかというと井の中の蛙になっていた。新し</p>

	<p>いメンバーが増えない中で、参加した当初は、ヘッドハンティングをする場として期待していた面があった。しかし、ヘッドハンティングはこちらが一方的にキャッチすることであって、議論する中で、双方向の対話が必要で、多世代や他の団体との交流が必要であることがわかってきた。今後も、何かの立場で関わりたい。</p> <p>また、エコプラザの場は、必ず利用していくし、みなさんの声を聞く場にしていきたい。いろいろな意見をいただきながら活動を続けていきたい。これまで接触してきたのは環境部門が多かったが、今は高齢者支援課とか地域医療の現場とか他のセクションとの接触が出てきた。そういう動きが、私たちが将来期待するエコプラザの答えにつながるのではないかと考えている。</p>
委員	<p>先日、ある講演会で「私はこの町に住みたくない」と2回も発言した方がいて、住んでいる身として、住みたくないと言われる町に住み続けるのはいやだなと思った。また、豊島区役所の職員から、消滅都市と言われたことが奮起につながって、よい方向に進んだという話を聞いた。最近、吉祥寺が、住みたくない町ランキングに出てくるようになった。それが逆に快感になっている。そういう刺激は大事だと思った。しかし、住みたくないと言う意見は、吉祥寺だけを何時間か歩いただけの意見であって、「gomi_pit BAR」や日常を見れば、簡単に住みたくない町とは言えないだろうとも思っている。</p> <p>また、視察対応の話で、木の花小路公園に関わっていたことを思い出した。当時の環境大臣の視察対応を私たち市民が行った。大変だったが、ここでこんなことをやっている人がいるのだということを、直に見てもらえて、喜びを感じた。いろいろな方の視察に対応していたので、視察対応にも慣れた。視察に来てくれたことによって、自分たちのやっていることに喜びを感じられるので、視察対応はみんなですれば楽しいと思う。</p> <p>学生と話すとき、何かしたい、ボランティアしたいと漠然としていて、何がしたいのかはわからないことが多い。学生が、こういうことがやりたいと言える土壌をつくる必要がある。また、学生だからこんなこともできるねとか、そんなことができたらいいいねと、聞き役となって、自分のことをもう一度見直すことにもつながるので、ボランティア学生にもそんなふうに接すると、お互いによいと思う。</p> <p>フラワーデザイナーとして仕事をする中で、開店したての花屋とつながりたいと金融機関に話をしたとき、葬儀の花の扱が一番大変だということを知った。その花を次に生かすのは難しいと思っていたが、市原悦子さんの葬儀の様子がテレビに映し出されたとき、花ではなく木を使っているのを見た。植木で持続可能なもので、最低限の生の花を使っているようだった。そういった、ちょっとしたインスピレーションから事業を展開していければよい。エコプラザがブラックボックスのような場になってくれればよいと思った。</p> <p>この会議では、皆さんとお話ししていて温かい雰囲気で大変よかった。これからも、集まる人たちがお互いに尊敬心を持って対応する温かさを感じる空間を維持していただきたい。</p>
委員	<p>クリーンセンター周辺整備協議会からの参加なので、いろいろと勝手な意見を</p>

	<p>言ったが、温かく受け入れていただいて、議論に花が咲いて良かったと思っている。</p> <p>このプロジェクトが新しいものをやろうという気運につながったのは、行政の支えがあったからこそと思う。柔軟に発想させてくれたことに感謝したい。その一方で、議論が足りないとか、この施設は新しく建替えた方がよいとか、スマートシティを標榜する武蔵野市ではごみ発電を絶やさないためにはごみは減量しない方がよいのではという意見がある。3町会では、こうした意見に対して要望書を出すことを考えている。次のパブリックコメントでもそうした意見が出てくると思うが、この会議の成果を活かしていくためにも、委員の皆さんには広く宣伝してほしい。クリーンセンターで完成ではなく、クリーンセンターとエコプラザとその間の芝生広場、野球場、市役所も含めて、武蔵野市の中核施設として、環境を考えていく施設になっていくことを望んでいる。そのことに関われたことがとても嬉しいし、これからは楽しみでもある。これからはふれあう機会があると思うので、よろしくお願ひしたい。</p>
副委員長	<p>私は普段ローカルなデザイン、それも緑のデザインをしている。ローカルをやっているとグローバルを無視したくなって、あえてそうしていたのが、この会議に出てから、委員長からSDGsについて学んで、受け止めようと思って勉強したら、非常に普遍的な概念だということがわかって、最近ではいろいろな所で触れ回っている。</p> <p>東京都の自然公園や環境政策について知事に諮問する機関である自然環境保全審議会の委員になっているが、そこのテーマの1番目がSDGsで、2番目が企業と自然環境保全をどう絡ませるかであり、ゴールは3年後という設定である。それに対して武蔵野市では、まだ全体がSDGsで色づけされてはいないが、エコプラザから発信していけることは大変先進的だと思っている。また、このロゴマークを出すだけでなく、17のゴールとその中の細目に対して、エコプラザの事業プログラムがどういう関わりを持てるかと言うところまで分析して、これからプログラムを立てていくと、もっと具体的になると思う。</p> <p>日本植物園協会のことに触れると、今までの植物園は簡単に言うと、木を植えっぱなしで勝手に見てもらう空間的植物図鑑のような感じだった。これからの植物園のあり方として、SDGsとESDを踏まえ、積極的に、植物が、あるいは環境がどんなふうに人間に影響するのかをアピールするように生まれ変わるべきだと思っている。例えば、ヤシの木を例にとると、温室に「ヤシ」とあって、ヤシ油の原料であることが書いてあるだけでは、何も伝えていない。ヤシ油をとるために、熱帯林がどれほど破壊されているか、企業の実態や環境との関係についてまで伝える植物園にするべきだと考えを改めた。委員長に教わったことが、私の中でも派生した。エコプラザそのものも、具体的にそのように進められていくとよいと思う。</p>
委員長	<p>1972年に環境に関わり始めてから、武蔵野市のごみのこと、クリーンセンターのことに関わり続けて、縁があつてエコプラザ検討の委員になった。</p> <p>今一番の目標は、2021年まで高校の教科書改訂にSDGsとESDを入れることで、日本ESD協会の副会長をしているが、言うは易し行うは難しである。教</p>

	<p>育なのか学習なのか、主体がどちらにあるかによって、捉え方が全然違う。</p> <p>私たち人間が想像している以上に、自然の仕組みは複雑であり、「こまめに電気を消しましょう」だけでは環境の課題には喰らいついていけないところがある。私たちには本質的な学びが必要である。SDGsのゴールでいうと4番目に「教育」があるが、学校教育だけでない。この会議の場も学び、学び合いの場だったが、皆さんからもいろいろなことを教えていただき、感謝している。</p>
委員	<p>理念は揺るぎないので、よい施設にしていきたい。</p> <p>来年度はプレ事業を実施し、担い手づくりも行いたいので、皆さんにもご参加いただきたい。</p> <p>また、2020年11月開館の際には、皆さんが担い手となって、参加していただけるものと思っている。</p>